

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県玉野市 玉野市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	ド訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
60,458	10,895	非該当	10：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

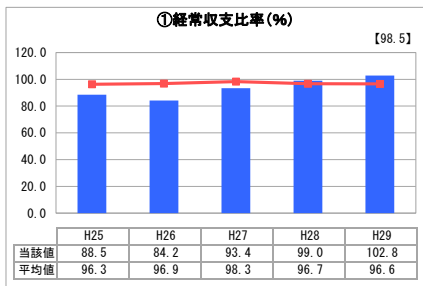
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	199
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
184	-	184

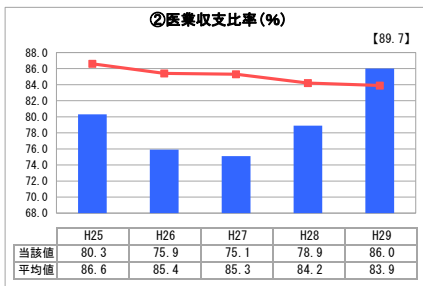
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

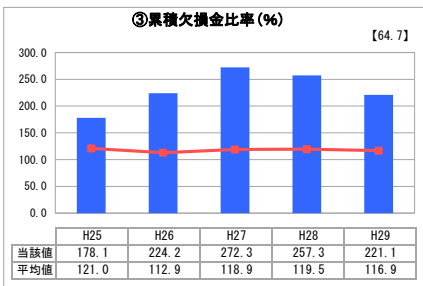
1. 経営の健全性・効率性



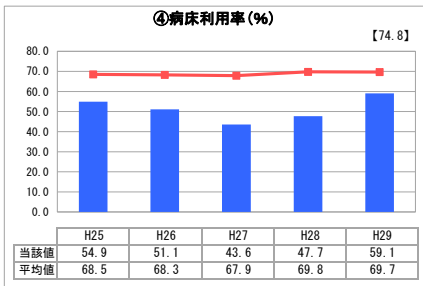
「経常損益」



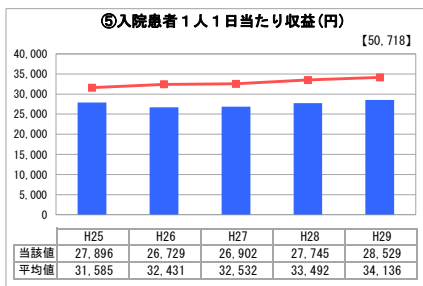
「医業損益」



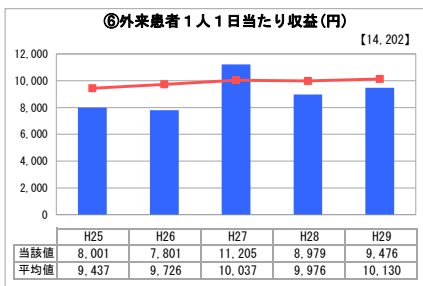
「累積欠損」



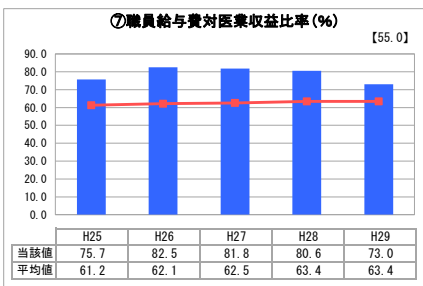
「施設の効率性」



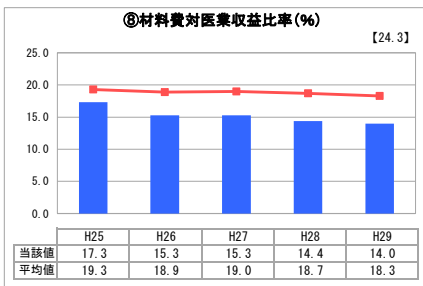
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

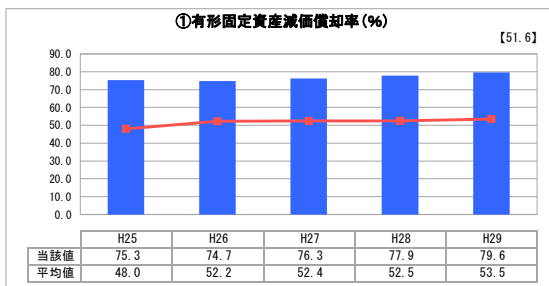


「費用の効率性①」

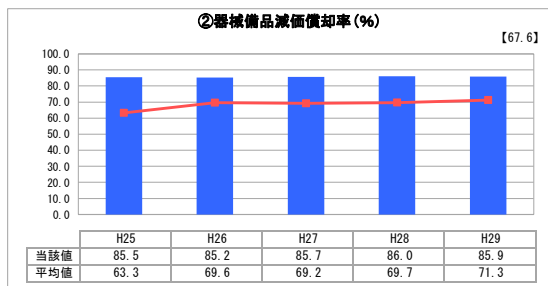


「費用の効率性②」

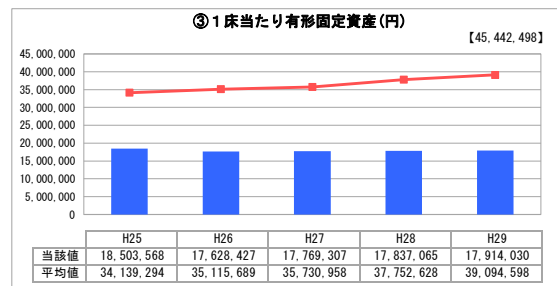
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

市内には当院を含め8つの病院が設置されているが、当院では、公立病院として救急医療、小児医療を始めとする不採算医療を担うとともに、地域急性期、回復期を中心に地域における中核医療機関としての役割も担っているところである。また、同一医療圏内には高度急性期機能を持った多数の病院が設置されており、高度治療を終えた患者が地域に戻って安心して療養できる場所として、バックベッドの役割も担っているところである。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当院の経営状況として、累積欠損比率が平均値を大きく上回り、多額の累積欠損金を計上するなど健全とは言えない状況ではあるが、経常収支比率及び医業収支比率において、前年度と比較して改善傾向であり、平成28年度から取り組んでいる病院改革の効果が表れ始めてきたところである。

特に収入面においては、病棟再編等に伴って地域に必要なとされる機能への転換を図ったことにより、入院及び外来のいずれも1人1日あたりの収益が上昇するなど、収益の増加につながったところである。また、費用面においても、職員給与費対医業収益比率や材料費対医業収益比率が改善しており、収入、費用を合わせた全体的な経営状況として確実に改善が進んでいる状況である。

2. 老朽化の状況について

築40年以上が経過し、減価償却率において有形固定資産、機械備品いずれも70%を超え、施設の老朽化が進んでいる状況である。反面、1床当たり有形固定資産は平均値を大きく下回り、経営面における負担は軽減されているもの、利用者の安全性や医療の継続性を考慮すれば、施設の更新についても検討しなければならない状況である。

全体総括

平成28年度からスタートした民間医療法人との業務提携も2年が経過し、経営面における改善傾向が見られるようになってきたところではあるが、現状の決算数値を見れば、依然として厳しい経営状況が続いており、安定的な経営に向けて、さらなる改革への取り組みが求められているところである。

一方で、病院施設の老朽化が進み、大規模更新の時期が迫っている中において、地域医療を将来にわたって存続させていくために、新たな体制作りについても協議を行っているところであり、周辺の医療機関との連携・統合も視野に入れたあらゆる可能性について検討を進めているところである。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。